

令和5年度東部地区道徳教育研究協議会

白岡市立篠津中学校

【B部会（3学年）】

主 題 名 充実した生き方を求めて
内容項目 A 向上心、個性の伸長
教 材 名 「男らしさ女らしさ、自分らしさ」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



意識調査を生かし、自分と重ね合わせて
考えられるようにする工夫



道徳的価値について
考えを深める場面



タブレット端末を活用した
考えの共有

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 話しやすい雰囲気があり、生徒は小グループでよく取り組んでいた。
- 導入では、自分の経験を想起することで、登場人物の悩みを自分と重ねて考えられるように工夫していた。また、ICTを活用することで、簡単に他者と自分の考えを比較したり、同じように悩んでいることを知ることができたりして効果的な活用であった。
- 発問の流れがよかった。「なぜ、自分らしさを見つけ、大切にしていけることが必要なのか？」という発問は話し合いが深まるきっかけとなるものであった。
- 書く活動の様子を見てみると、生徒は一生懸命に「自分らしい生き方」について考えていた。3学年での授業であったため、進路の話で自分と関わらせることができていた。道徳科の授業では、自分事として考えられる工夫が大切であると改めて感じた。



2 指導講評

- 道徳科の授業で、なぜ自分との関わりで考えることが大切なのか、改めて考えたい。道徳科の目標にあるように、人間としての生き方、自己の生き方について考えることが大切である。
- 子供たちの「気づき」から問題意識をもたせ、考えさせていくとよい。そのような工夫をすると、自分事として考えやすくなる。
- 子供たちの実態を大切にしながら、授業展開の流れを考えることが大切である。
- 子供たちに深く考えてもらいたい部分は、時間を十分に確保したい。
- ワークシートを活用して、「自分の考え」「グループの考え」を書かせた場合、それをどう生かしていくか考えていきたい。
- 本教材は、人権教育についても押さえながら授業をしていく必要がある。
- すぐに考えを共有できることがICTのよいところである。これを、どう生かしていくのかが私たちの課題であり、考えなくてはいけないところである。

